

忘れじの人

吉成 庸子

▷▷12

岡島正之先生は、市原市出けれど、「岡島先生がご活躍身で衆議院議員を4期なさった頃、彼は報道カメラマンとた方だ。現在でも、先生を慕って、ずっと外国に行っている方が随分いる。そのたので、詳しくは知らないの層の厚さにあらためてビックじゃないか？ 岡島先生のこりしている私だ。

私自身市原出身なので、店は、二階俊博議員だよ。二階に来ていただいたこともある先生にお聞きするのが一番だし、お世話にもなった。ただ、よ」と、進言してくださる方私の知っている岡島先生だけがいた。でなく、もっと深く知ってこいって、二階先生は二階れを書くべきだという思いが派の領袖で、衆議院予算委員湧いてきた。

ご子息の正一氏とは親しいうお忙しいお体だ。お願いは

岡島正之先生

多くの人に慕われ続ける

できないと思っていたところ、小林鷹之先生の会で、柳さん聞かせてもらった。岡島からだろう。内光子さんのご紹介から偶然先生のお話を聞かされたそう

お目にかかることができた。衆議院議員になられたそう。『ぜひ岡島先生のご紹介から取材だ。そこで、岡島さんの奥様にお伺いしたい』と、勇気をと二階先生が遠い縁戚だとい出してお願したなら「時間をうことも分かり、とても仲良

したが、岡島先生を慕っている皆さまは、しっかり理解していただろう。お話を聞か

取るからね」と言ってくさしになられたとのこと。

そして、すぐに小林鷹之議 党にお2人とも入られた。そ敗れたのを機に、岡島先生は 帰

員から「二階先生がお時間を して、その時の選挙でお2人 息子の後継ぎと決め、ご自 ぶりに岡島の話ができて、僕 取ってくださったので、議員 とも、それまでにない票を取 分は引退された。人間の世 界もうれしかったよ」と言っ 会館へおいでください」とい って当選されたそうだ。政党 は、義理人情がからめば、自 くだされた。先生の温かさ とう、ありがたいお電話をいた が変わっても、自分たちは岡 分の意志通りに動けず立場を 人間の大きさをしっかり感じ だいた。そして、私の知らな 島支持、二階支持は変えない 変えねばならぬ場面もある。 た思いがした。（おわり）